



広告

# 「こもれび」 voice 02. 2022 komorebi group

障がい者就労継続支援事業所「こもれび」

## 「こもれび」の魅力を探る、 ホンネ座談会。

8年前から障がいのある方の居場所と働く場所を地域密着で作ってきた株式会社こもれび。三河地区中心に、現在利用中の方が350人を超えました。今回は、こもれびの利用者様2名、元利用者で現在は職員として活躍する2名の計4名で、座談会を行いました。



数多くある施設の中で、こもれびグループの施設に決めた理由をお聞かせください。

**Aさん** 僕は車いす生活なので、一番の決め手は自宅まで来ていただけた無料送迎です。とても助かっています。

**Sさん** 一番の理由は、利用者としてスタートして、ゆくゆくは一般就労を目指せると感じたからです。元々パソコン業務の仕事をしていたので、パソコンを使った職種が多かったことも選んだ理由です。

**Nさん** 僕は当時勤めていた会社があったのですが、病状がとも悪くて2ヶ月も動けられませんでした。実際は3社ほどそのような状態が続いていて苦しい時期もありました。当時の仕事を辞めて、職業案内所にお仕事の相談をしたところ、紹介していただいたのが、こもれびグループでした。面接官の方に「好きなことを仕事にしてください。何度失敗しても大丈夫です。ゆっくり仕事に慣れていきましょう」と言われて、とても気が楽になった記憶があります。

**Hさん** 僕の場合、本当にリアルな話ですが、他の就労支援の施設に比べると給料が高額なところ、これは生活していくうえで本当に大事なことだと思います。やはり心の余裕も生まれると思います。なんか現実的すぎてすみません(笑)。

**実際に利用してみて、どう感じましたか？**

**Aさん** 障がいをお持ちでも笑顔で仕事をしている方の姿や、前向きな気持ちの方を見て、「苦しいのは自分だけではないな」と感じました。みんなイキイキとしていると感じました。人の見方や、捉えかたを大きく変えていただいた場所ですね。

**Hさん** いろんな人がいるので寛容になれた気がします。最初は「えっ」って思うこともありました。今は少なくなりましたね。

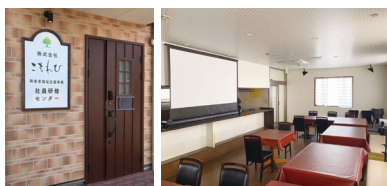
**Nさん** 自分を見つめ直す時間が増えました。こもれびの施設に来てから心のゆとりができ、また自分自身のストレス耐性の程度や適応など、自分を少しずつコントロールできるようになりました。これからも病気がうまく付き合えるよう頑張っていきたいですね。

## 人材育成に力を入れて いる施設だからこそ。

利用者から職員になったお二人は、こもれびをどう見ているのでしょうか。

**Sさん** 私自身、病気の症状が良くなってきて、現在はこもれびグループの職員になりました。利用者として、支援員の方からの毎日のサポートやお声掛けなどの気遣いしてもらいました。支援員はじめ職員の方は、利用者様が毎日通えることを目指し、居心地の良い環境づくりのため、いろいろな研修を受けていることも知りました。こもれびで人材育成に力を入れている施設だからこそ、私のように一般就労できるまでサポートいただけたのだと思いますし、本当に感謝しています。これからは、私と同じように障がいでも苦んでいる方のサポートが少しでもできるよう努めていきたいです。

**Hさん** 利用者という経験があるからこそ、利用者様の気持ちに寄り添える強みがあると思っています。中には困っている、なかなか助けを求められない方もいらっしゃいます。自分の経験の中で、支援員さんからの「うれしかったサポート」を、自分なりにアレンジして、利用者様に提供できればと思います。



社員研修センター

そして、こもれびが提供してくれる、人材育成の制度も活用しながら、支援員としてのスキルを高めていきたいですね。それにより、利用者様が安心な気持ちになりに、こもれびで働いてみようという、かけがえのない一歩につながるとうれしいです。



Sさん(女性50代)  
元利用者様  
(現在こもれび職員)



Aさん(男性40代)  
利用者様



Nさん(男性40代)  
利用者様



Hさん(男性30代)  
元利用者様  
(現在こもれび職員)

こもれびグループ ホームページをリニューアルしました!

<https://komorebi.kmgr.jp> こもれびグループ



ここから  
アクセス



障がい者就労支援A・B型 / 放課後等デイサービス / 相談支援事業所

株式会社こもれび 【本部】 〒472-0035 愛知県知立市長田3-47  
Tel.0566-84-5595 Fax.0566-84-5596

※「広報ちりゅう」発行経費の一部に充てるため、有料広告を掲載しています。内容に関する一切の責任は広告主に帰属します。